

# 長野工業高等専門学校地域共同テクノセンター寄附研究部門「制御システム開発研究部門(ミマキエンジニアリング)」設立記念シンポジウム参加報告

電気・電子・情報系班 中村 玲治

標記のシンポジウムに参加いたしましたので報告します。

## 1.概要

長野工業高等専門学校の地域共同テクノセンターは、地元・長野県東御市の企業であるミマキエンジニアリングの寄附によって、制御システム開発研究部門を設立しました。これを記念するシンポジウムが行われました。

## 2.主催者

長野工業高等専門学校

## 3.日時・会場

日時:平成 21 年 9 月 29 日

会場:メルパルク長野(長野県長野市)

## 4.日程

・あいさつ

・感謝状贈呈

・寄附研究部門の概要の説明

・記念公演

-「組み込みソフトウェア産業の動向と求められる技術者像」情報処理推進機構 田丸喜一郎様

-「長野高専と塩尻インキュベーションプラザによる地域人材育成活動」塩尻市振興公社 藤井

正美様

-「ビジネス創出や人材育成活動の一環としての品質向上」須坂市 福島康正様

・情報交換会

## 5.所感

長野工業高等専門学校地域共同テクノセンター制御システム開発研究部門は、「ソフトウェアドキュメンテーションの適用による組み込みソフトウェアの生産性と品質の向上」をテーマとし、長野高専岸副校長が中心になり、複数の教授その他が研究する部門との事です。ソフトウェアドキュメンテーションとは、ソフトウェアに附随し、コードの詳細や使用法などを解説する文書です。これを利用することにより、そのソフトウェアの使用・メンテナンスなどが行いやすくなります。たとえば、ある機能を持つ変数が何であるか時間をかけて探す必要がなくなります。よって、業務用プリンタなどを開発しているミマキエンジニアリング社の製品を対象として、ソフトウェアドキュメンテーションの研究を重ねることにより、ミマキエンジニアリングにもよいフィードバックがもたらされるものと考えられます。

特別公演では、塩尻市と須坂市における取り組みが紹介されました。塩尻インキュベーションプラザは、塩尻市・信州大学・エプソンアヴァシス株式会社により 2007 年に設立された施設であり、地元においてソフトウェア産業に役立つ人材を育成しています。須坂市では、「組み込みビジネス・コラボ」と呼ばれる組織を作り、地元のソフトウェア企業や信州大学・長野高専などが組んで技術者育成に取り組んでいます。その活動の一環として品質向上に関する活動を行っています。品質向上については、機能としての品質のみでは国際競争で不利にあるため、これからは感性に基づく品質が重要になる、と発表されました。また感性を豊かにする方法についても紹介されました。

情報交換会では、長野県の高専その他の関係者との交流を深めることができました。

以上の、発表会で知ったことを、今後の私の仕事のためにフィードバックしていきたいと思います。特に、ソフトウェアドキュメンテーションは、ソフトウェア開発の成果の利便性を劇的に向上させるものだと考えられますので、今後私のほうでも勉強していきたいと思います。